【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	有田町立曲川小学校

1　前年度 評価結果の概要	年間を通して、学校全体で本校の学校教育目標を改めて意識して取り組んできた。めざす児童像「たくましい子・自ら学ぶ子・心豊かな子」を職員・児童・保護者が共通理解して具体的に指導支援したことで、児童は大きな事故等がなく学校生活を送り、８７%が学校を「楽しい・まあまあ楽しい」と感じている。また、地域の方の協力で数年間無事故で過ごしている。志を高める教育の１つとして陶芸教室等、地域人材を活用した体験学習に取り組んだ。学習面では、今年度から算数科を中心に、小中連携して学力向上を図っていく。心の教育の面では、いじめ防止や不登校児童対策として、ＳＣやＳＳＷ、専門機関等と連携し、児童や保護者が相談しやすいように場の設定や情報提供等を充実していく。特別支援教育では、特別支援学校（巡回相談）の協力も得て児童理解に努めてきた。職員の働き方改革として、各自の意識高揚を図るとともに、誰もが働きやすい環境を整えていく。成果の上がった項目をより高めつつ、課題をしっかりと把握し、改善に努めていきたいと考える。心身ともに健全で、自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ子どもの育成に力を尽くしていきたい。
2　学校教育目標	**心身ともに健全で、自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ子どもの育成**
3　本年度の重点目標	**自分から自分で　～自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ児童の育成～**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○授業力向上に取り組み、1時間1時間を大切にした分かりやすい授業実践	○各教科の基礎的・基本的な課題に対し、児童の正答率85%以上	・基本的な学習スタイルの確立を進め、自ら学ぶ「楽しさ」と「学び方」を習得させるための取組を実践する。		・		・		・
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○日々の授業の中で人権・同和教育の視点に留意した学級集団づくりに取り組み、Q-Uアンケートで要支援群5%以下にする。	・各学級、道徳の授業参観を年1回以上実施する。 ・特別活動の理論実践研究を全職員が深め、「心のアンケート」やQ－Uアンケート等を生かして実態把握をし、授業実践する。 ・校内研究や日々の授業の中で人権・同和教育の視点に留意して取り組む。		・		・		・
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止や早期発見のための取り組みや事案対処において、組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・日々の観察とともに、「心のアンケート」やQ－Uアンケートを行って児童の実態を把握する。その結果をもとに、個別に面談を行い、いじめ等の早期発見に努める。また、いじめについての研修を行い、児童の把握やいじめのメカニズム等について理解を深める。 ・SCやSSW来校日には、児童が相談しやすいように場の設定や保護者への情報提供を行う。		・		・		・
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・ゲストティーチャーを招くなどして児童の視野を広げ、向上心を高める。 ・各教科や行事等を通して、自分の夢や目標について考える時間を設け、キャリアパスポートを活用する（学校行事に関連づける）		・		・		・
●健康・体つくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする	・安全に子どもたちが登校できるように、子ども見守り隊の方々に支援を依頼し、安全安心な環境づくりへの感謝の気持ちを子どもたちが持てるような場づくりを行う。 ・保護者や地域の方より通学路の情報を収集し、校区安全マップを見直す。 ・各学年の実態に応じて、交通ルールを守ることの大切さを全職員で指導する。		・		・		・
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に良い食事をしている」と回答した児童90%以上	・各学年で計画的な食育指導を行い、栄養教諭と連携し、食育授業を年1回以上実施する。		・		・		・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・管理職は、教職員の在校等時間の実態を正確に把握し、休暇を取得しやすい職場環境づくりに努める。 ・ICT支援員を積極的に活用し、動画教材の作成や、能率的なデータ管理・保管を行う。 ・デジタル教材の共有化、管理の徹底を行う。		・		・		・
	○会議の開催方法の改善、時間短縮と内容の精選	○会議資料はなるべく電子化し、職員会議等の時間は1時間以内とする。	・部会での検討を十分に行い、会議での検討内容を精選しておく。 ・職員フォルダに資料を事前に入れ、一読しておくことで協議の時間を確保する。		・		・		・
●特別支援教育の充実	○特別な支援や配慮を要する児童に対する意識と教員の専門性の向上	○「特別支援に関する専門性が向上した」と回答した教員80%以上	・夏季休業中に全職員を対象にした特別支援教育の研修を行う。 ・気になる子の共通理解の場を週1回の職員連絡会で設ける。また、特別支援教育コーディネータを中心とした支援会議を随時行い、児童の状況や対応の方策を話し合う。 ・必要に応じて特別支援学校と連携し、巡回相談を実施する。		・		・		・

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○ICT利活用の推進	○各教科等の授業や家庭学習における、学習用端末の積極的・効果的な活用	○「学校で１日１回は端末を使って学習した」と回答した3年生以上の児童80%以上	・職員研修等を通して、授業等における端末の効果的な活用方法を職員間で共有する。 ・原則として、土日は3年生以上の児童に端末を持ち帰らせる。		・		・		・

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・